

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 12月21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3670100209
法人名	社会福祉法人 青香福祉会
事業所名	グループホーム 藍香
所在地	徳島県徳島市川内町平石住吉183番地 (電話) 088-666-3811
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 12月 7日

## 【情報提供票より】(平成19年11月22日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成16年 4月 22日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤8人,非常勤 9人,常勤換算1丁目6.6人,2丁目6.75人	

### (2)建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,800~40,300 円	その他の経費(月額)	実費	
敷 金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	180 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4)利用者の概要(11月22日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	7 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.78 歳	最低	74 歳	最高	97 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	大塚外科内科 ・ 大塚歯科
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1丁目と2丁目のユニットの間に四季の変化が感じられる中庭があり、明るく、落ち着いた雰囲気作りができています。浴室には爽やかな香りの桧の浴槽が設置されており、利用者の楽しみとなっています。ボランティアの訪問も多く、地域との連携が図られている。また、母体法人の看護師がホームに出向き、看護相談の体制があり、安心に繋がっている。利用者には笑顔や会話も多く、職員のきめ細やかな支援の下で穏やかに暮らしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「理念の明示」については玄関壁のボードにわかりやすく掲示され、「権利・義務の利用者・家族等への説明及び同意を得る」についても改善されている。また、「緊急時の手当て」では、定期的に訓練を実施し、ホーム内で対応ができる体制となっている。「注意の必要な物品の保管・管理」や「介護計画への利用者・家族の意見の反映」についても改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・職員は自己評価の意義を理解し、スタッフ会議において内容の検討が行われ作成されている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回開催されている。会議には、利用者、家族、地域包括支援センター職員、民生委員の方が参加され、前回の評価結果や具体的な改善案の報告、また、地域の方達からの協力的な申し出や利用者・家族の希望等が話し合われている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月「藍香だより」を家族に送付し、利用者の暮らしぶりを伝えている。また、運営推進会議において公的機関にも相談等ができる事を伝えている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の行事に参加し交流している。ボランティアと一緒にフリーマーケットを開き、販売や、会計等に参加している。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所開設当初からの理念であるが、地域密着型サービスとしての、その人らしく暮らし続ける事を支援する内容となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送りやミーティングでは、理念を確認し話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に参加し、地元の人たちと交流している。また、ボランティアと一緒にフリーマーケットも開催している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善項目であった「理念の明示」、「権利・義務の明示」、「緊急時の手当て」、「注意の必要な物品の保管・管理」、「介護計画への家族の意見の反映」等については、職員間で話し合い、改善されている。自己評価はスタッフ会議において全職員で内容の検討が行われ作成されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催されている。会議には、利用者、家族、地域包括支援センター職員、民生委員の方が参加され、現状報告、意見交換が行われている。会議録は職員に回覧し、確認印もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当窓口に対して、事業所の現状等を伝える機会を持たれており連携されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、請求書と預かり金出納帳と併せて「藍香だより」を送付し利用者の近況を報告している。職員の異動等は家族会で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で外部の公的機関にも意見・苦情・相談ができることを伝え、家族会でも常に言いやすい雰囲気作りに配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員を固定化している。やむを得ず異動をする場合には、引継ぎの期間は、既存の職員を一緒に配置し、利用者の不安やダメージを最小限に抑えるよう取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て、法人内・外の研修を受講している。毎月のスタッフ会議の際に勉強会を設け、研修報告を行い、内容は全職員が共有できる仕組みになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの相互研修や、相互評価訪問を通して、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に、まずホームを見学してもらい、時々遊びにきてもらって一緒に過ごしたりしながら、安定して利用できるよう取り組まれている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、入居者の思いを共有し信頼関係を築いている。利用者から教えてもらう場面も多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で希望や意向の把握に努めている。困難な方は家族や関係者と話し合って検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意向、医師や職員の意見等を通して課題を把握し、介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に変化が生じた時は現状に即した介護計画が作成されている。しかし、状態に変化の見られない利用者のプランは定期的な見直しがされていない。	○	3ヶ月毎の定期的な見直しとともに、利用者・家族への説明を行われない。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の要望に応じて通院や、帰宅等その都度柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望するかかりつけ医となっている。協力医療機関以外への受診は基本的には家族の同行となっているが、場合によっては職員が代行するなど柔軟な対応をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応については、利用時に説明し、利用者、家族、職員、医師等で方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフ会議の折に職員の意識の向上を図り、利用者の誇りやプライバシーを損なわないよう対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間を区切った生活ではなく、その時の利用者の状況に合わせて買物や散歩など希望に添った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立、食材の買い物、調理等、利用者の好みや力を活かしながら行っている。介助の必要な方が多く職員が食事を一緒に摂ることは難しい状態である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望する時間に入浴できるようにしている。入浴を拒む方には言葉かけなどを工夫し入浴できるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	草取り、買物、調理など、利用者個々の得意分野を活かした役割や楽しみごとなどの場面が設けられている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、ドライブ、遠足等気候や利用者の状態にあわせて外出できるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵はかけていない。利用者が外出しそうな様子が見られた時には、さり気なく付いて行ったり、併設施設職員の協力も得ながら支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て年2回の避難訓練をおこなっている。また、夜間災害を想定し独自に訓練を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をチェック表に記録している。栄養バランスについては併設施設の管理栄養士にアドバイスをもらっている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の前に仔犬を飼っており、利用者が様子を見に行ったり、世話をする場面がある。浴槽は桧風呂で利用者は入浴を楽しみにしている。食卓には季節の花が飾られており季節感を感じられる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や仏壇を持参され、自分の好みにレイアウトされ居心地よく過ごせるような工夫がされている。		